

さくらみ川

新 年

謹 賀



協力に感謝

宮司 黒須主計

第六〇号 平成十九年一月一日

熱日高彦神社社務所

電話 〇二四 六一〇四一

URL <http://hitaka.org>

Mail atuhitaka@hitaka.org

先ずは新年のお喜びを申し上げます。
氏子の皆様お一人お一人にとりまして平成十九年がよい年でありますことを神前にお祈りいたします。殊に今年その神前は実に明るく、暖かく皆様のお力で清々しくなつたことを、神様と共に喜びに思います。

昨年の春祭直後に着手した境内整備と社殿修復工事等が竣工し、予定通り去る十一月二十二日日本遷座祭、二十三日竣工奉告祭を齋行致しました。大事業の完成後初めてのお正月、改めておめでとくございます。

平成十七年春の各区総会を皮切りに総代の方々が組織分担し、業者選定と契約、氏子の方々から浄財を頂いて廻る仕事が始まりました。伐採製板境内整備 社殿三棟の修復と、電気水道 看板の工事、それに文化財としての記録保存事業も含めて、多岐に渉る取り組みがなされました。

請負われた業者の方々も、幸いこれまでの経緯を熟知されている方々で、奉仕的に建設的に作業を進められて、終に皆様の期待を超える姿を実現させて頂きました。

猶、この事業の発端であった参拝者のための施

設とこの社殿の管理機能を加えたものを残しております。創祀千九百年までに三年程の余裕が有ります。そして今も、この記念事業のことを伝え聞いた遠近の崇敬者、伊具地区内の業者等から浄財が寄せられております。この際、当初の目的まで完成させたく存じますので、皆様のお心当たりの崇敬者等にお話下されば幸いです。

昨年は、また禰宜の一級昇進に際し、皆様から装束を頂戴致すなど重ね重ね配慮を戴きましたが、今年はそれらのお励ましにお心えし、ひいては郷土の発展に寄与して参りたく思います。

皆様にとりまして良い年でありますことを心から念じ、年頭の挨拶と致します。

御礼

総代長 佐藤善一

新春のお慶びを申し上げます。

さて、この度の事業には、氏子崇敬者の皆さまよりご理解と多大なるご奉賛をいただきました。おかげさまでもちまして立派に竣工できましたこと報告いたしますと共に、心より御礼申し上げます。

今回の上事に伴い、お日高さんはさらに立派に、そしてお参りしやすくなったと確信いたしております。どうぞ皆様も、いっしょに参拝いただきたいと思います。

奉賛活動は予定通り今年度まで続きます。その後には千九百年の大きな節目が控えています。今後とも一層の支援をお願い致します。

お正月行事のご案内

暖かな社殿で初詣

さいたんさい がんたんけんぜんさい

歳旦祭 元旦献膳祭のご案内



期日 正月元旦(月・大安)

時刻 午前〇時

場所 社殿内

修繕されたご社殿で新年を迎えてみませんか。心も体もあらたまり、きつと良い一年になりますよ。

どなたでもご昇殿いただけます。

今回より暖かくご参列いただけます。

皆さんに歳旦祭のお札を授与いたします。

祭典後、新年一番祈禱を致します。家内

安全や歳なおしなど事前にお申込み下さい。

とんどの火で無病息災

さいかさい

冬の火祭 斎火祭

期日 十四日(日・赤口)

時刻 夕刻～午後八時半

場所 境内広場 斎火所

古いお札や正月飾りをお持ち下さい。

有志の皆さんの振舞いで温まって下さい。

和紙とつるうの奉納をお受けいたします。

温かな明かりで境内を照らしてください。

総代さんにお申込み下さい。一体二千円。

有毒ガスを発生する物は避けてください。



「お日待ち」^{ひま}で家内安全

今年も「お日待ち」にうかがいます。

お日待ちは各家庭の神棚のお祭。今年一

年の家内安全、家族の健康をお祈りします。

ぜひご家族おそろいのおときをご指定下さい。

今年の日程を区ごとに示しておりますが、

目安としてご検討下さい。

お祭にはお札と招福土鈴をお供えします。

《目安日程》

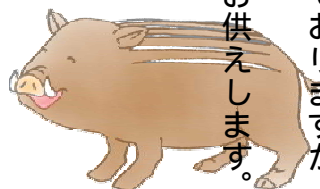
三区 四・五日

二区 六・七日

一区 八・九日

四区 一〇・一一日

一・三日、一・二・一三日もお受けします



諸祈願祭のご案内

神社で、またお日待ちにあわせて、ご祈
禱、お祓いをいたします。特に厄年に当た
る方は、今年を大過なくすごせるよう、年
の初めに「歳なおし(厄祓い)」をお受けに
なることをお勧めいたします。

男性本厄

25歳(58年) 42歳(41年) 61歳(22年)

女性本厄

19歳(元年) 33歳(50年) 37歳(46年)

49歳は男女とも

前後が前厄・後厄 () は生まれ年

事業だより

本殿遷座と竣工奉告祭

盛大に齋行

工事の竣工にともない、十一月二十二日の夕刻に正遷座祭、二十三日には新嘗祭に合わせ竣工奉告祭を齋行いたしました。

正遷座祭は御神体を社務所の仮御座からご本殿へお遷しする重儀。木枯らしも止んだ浄間。参道に参列した氏子崇敬者に見守られ、清かな雅楽の音とともに厳かに遷御の列が進みます。およそ二時間をかけて無事、御神体は御本殿に再びお鎮まりになりました。



翌日は晴天の下、新嘗祭並びに竣工奉告祭を盛大に執り行いました。ご案内をいたしましたところ、百名を超える来賓・氏子数敬者のご参列をいただきました。

祭典の後、整備された広場を会場に、祝賀の宴が開かれました。請け負われた工人各位への感謝状贈呈、挨拶、祝辞と進み、全員で乾杯。お祝いの雅楽、巫女舞、神楽奉納され、整備された鎮守の杜に奉祝の音色が響きました。



桃の節句はひな遊び

ひな祭・ひな送り祭

とき 三月三日(土) 午前10時より
ところ 社殿・社務所・桜井川

今回も折り紙の先生をお招きして、ひな飾りを折ったり、流し雛を川に流したり、絵本の読んでいただいたり、楽しくすごしたいと思います。また、古いお人形やぬいぐるみを神様にお返しするお祭もいたします。ご家族で、お友達と遊びに来てくだされね。



ご家族で、お友達と遊びに来てくだされね。

お宮参りおめでとついでいます



角田にお住まいの
笠間宏樹さん

万里子さん

ご夫妻

長女 あいら
愛梨ちゃん

竣工して最初のご
祈禱がお宮参り。
「本当にありがたい
です。健やかな
成長をお祈りいた
します。」

お日高さんの自然
マツ(松) マツ科



熱日高彦神社の社林内にも、何株かのマツが自生している。マツは古くから我々日本人の生活に深くかかわってきた。建築や家具の用材として、燃料などの重要な熱エネルギー源として、一方、年中行事を通して精神的、宗教的な面においても。

さて、日本人の最も大切な年中行事は正月行事である。かつてはどの家庭でも正月には「正月の神」を迎えるために、神が天から降りてくる目印として「門松」を飾ったものである。「門松」を二本立てる場合には、一本は男松黒松、もう一本は女松赤松とするのが正式であり、家の中にも「拝み松」を供えたものであった。

正月の飾りは、昔は松が中心であったが、やがて室町時代以降竹と梅を添えるようになり、「歳寒三友」とたたえたとされる。関西ではこの黒松、竹、梅を盆栽にして「席」に飾り、

「せきだい」と称したといふ。松は葉の短い黒松が「五葉松」、梅は早生種の「寒梅系」、竹は「子笹」など小型の笹類が良い。

かの有名な牧野富太郎博士によると、植物学上から見ても、松 裸子植物、竹 単子葉類、梅 双子葉類 の選定は申し分ないといふ。正月には、これらの植物以外にもいくつかの植物が飾りとして、あるいは飲食物として利用される。それぞれのいわれや意義を考えてみるのもまた楽しいことと思う。しかしながらその反面家庭や地域の伝統行事は簡略化され合理化されてゆく。そしてやがては消えていってしまうこの現実。寂しく思うのは私だけだろうか。 (文/小島和夫氏)

SSS 1奉納・1奉仕 SSSSS

米、野菜、果実など奉献

各区 神社総代各位(新嘗祭神饌)

一区 佐藤俊一、赤坂敏栄、佐藤雅邦、赤坂誠、齋藤茂夫、木幡市郎、赤坂昭海、齋藤公一、黒須嘉次男、只野りつ子、只野亨、畑栄一

齋藤理一(豚肉)
二区 齋藤仁、門馬強、門馬一男、渡辺郷司
三区 三品久志、齋藤福男、佐藤善一、佐藤勝征
四区 佐藤武覚夫、佐藤敏、佐藤政志

大内 阿部喜六
神具・器具など奉納
一区 齋藤勝二(ストープ)
二区 門馬強(御鈴)
三区 酒井貞八(案)

角田 手塚直彦(写真)
境内整備など奉仕

一区 山家隆

三区	佐藤勝征
枝野	笹木文夫
	植木・花など奉納
一区	齋藤實(菊花)
	順不同、敬称は略させていただきます。
	祭典初穂、祝儀、祈祷時の奉献等は割愛させていただきます。
	事業奉賛については改めてご報告させていただきます。

社頭 暦

一月	一日 元旦 歳旦祭 初詣
	七日 七草
	九日 成人の日
	一四日 斎火祭(とんど祭) 献灯
	一五日 小正月
二月	一日 如月月次祭
	三日 節分祭
	一日 建国記念の日
	一七日 祈年祭
三月	一日 弥生月次祭
	三日 ひな祭 ひな送り祭
	二二日 春分祖霊祭

編集後記 明けましておめでとございます

昨年は工事に明け暮れた一年であり、また皆さまの暖かな誠意に支えられた一年でありました。今後、整備された施設の維持運営に力を注ぐことで、皆さまのお心に添えて参ります。神職身分昇級に際しまして装束等調べて頂き、ありがとうございます。今後益々精進して参ります。ご指導の程よろしくお願致します。(禰宜)

ふるさとを担い!

4月6日(金) 例祭神輿担ぎ手募集